

官民連携グリーンチャレンジモデル

民間資金、技術、ノウハウ等を活かし、再生可能エネルギーを活用したインフラ・防災拠点の整備、維持管理運営等を通じて、持続可能な地域創生に貢献します！

● 遊休公的施設を活かした再エネ導入型シン・エコパーク(仮称)の整備・運営事業

本事業の特徴

活かす：人口減少・少子高齢化等に伴い増加する地域の遊休公的施設(廃校等)の有効活用

留める：周辺地域の観光資源へ向かう通過人員(モビリティ利用者等)をターゲットとしたサービス拠点の整備

増やす：企業誘致(地域内外の事業者・生産者)による地域サービスの向上並びに雇用創出に伴う地域経済の活性化

創る：再生可能エネルギー(電気、熱)を最大に活用することによる、地域の脱炭素化推進並びに環境価値創出

守る：フェーズフリー(常時・非常時に利用可能な)施設の整備で地域のレジリエンス強化

交わる：活気あるコミュニケーション空間の整備でUターン・Iターン・Jターン人口を増大



～ シン・エコパーク(仮称)事業イメージ図 ～

シンボリックで新たな**エコロジー**(環境価値) **エコノミー**(経済循環)を生み出し

モビリティ利用者も立ち寄るコミュニティ空間(**パーク**)

● 再生可能エネルギーのメニュー案

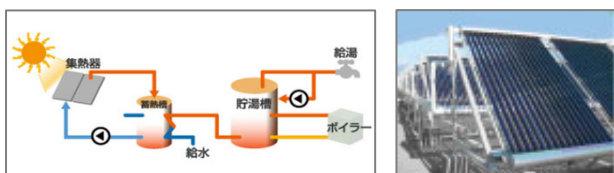
地方公共団体へのご提案

- ✓ 下水処理場やポンプ場に未活用の遊休空間を保有
- ✓ 下水熱や水力等の再生可能エネルギーの可能性



- 温室や商業施設等による賃料収益
- 事業創出による雇用促進や地域の発展
- 住民等のエコ意識の醸成
- 非売収穫物の公的施設等への提供
- 一時避難場所（電力供給）

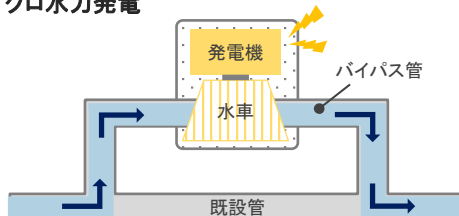
● 太陽熱利用システム



出典：経済産業省 資源エネルギー庁Webサイト「太陽熱利用システム」

太陽熱利用システムは、太陽の熱を使って温水や温風を作り、給湯や冷暖房に利用するシステムです。国内で最も普及しているのは、戸建住宅用太陽熱温水器ですが、ホテル、病院、福祉施設等の業務用建物でも使用されています。

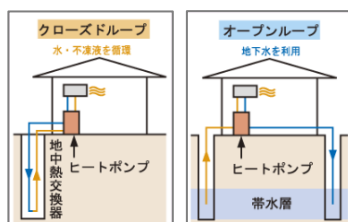
● マイクロ水力発電



マイクロ水力発電は、発電出力が100kW以下の小規模な水力発電で、上下水道水や農工業用水等の既存のインフラに導入が可能です。なお、これまで活用が難しかった比較的小さなエネルギーを、低コストで効率よく取り出すことが重要になります。

● 地中熱利用システム

地中熱とは、浅い地盤中に存在する低温の熱エネルギーです。大気の温度に対して、地中の温度は地下10~15mの深さになると、年間を通して温度の変化が見られなくなります。

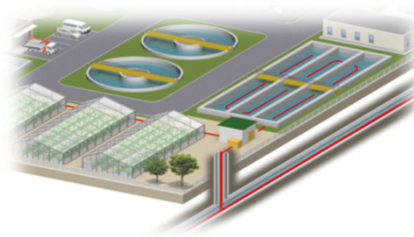


出典：環境省Webサイト「地中熱とは？」

そのため、夏場は外気温度よりも地中温度が低く、冬場は外気温度よりも地中温度が高いことから、この温度差を利用して効率的な冷暖房等を行います。

● 下水熱利用システム

下水は大気と比べ冬は温かく、夏は冷たい特徴を有し、都市域に配置された下水管等から熱回収が可能です。



すでに下水熱はビルの冷暖房や給湯、道路の融雪、農業等に活用されていますが、下水処理場の遊休空間活用を組み合わせることで、農業生産者等に温室として賃貸することも考えられます。

● 今後の展開(想定するスキーム案)

本事業を実現に導くためのキーサクセスファクターは、事業開始後も継続的なサービスを提供できる地域密着型の官民連携スキームを構築することです。

再生可能エネルギー設備を導入するシン・エコパーク(仮称)で環境価値を創出するとともに、地域外の人を呼び込み、出店するテナントでサービスを購入してもらい、当該施設が、地方公共団体に賃料を支払うことで、地域経済循環の創出も可能となります。

シン・エコパーク(仮称)は、災害等の非常時には、避難場所や防災備蓄品の提供、非常用電源や温水の供給等、フェーズフリー施設として、地域のレジリエンス強化にも寄与し、地域住民に愛されるシンボリックな施設へと生まれ変わります。

